

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム「さくらはうす」
所在地 (県・市町村名)	長崎県南島原市有家町
記入者名 (管理者)	小笹 京子
記入日	平成 21年 1月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来からある難しい言葉の運営理念ではなく、職員全員で自分たちがケアを行う上で何を大切に思っているか？を根底に考え、簡単な言葉で運営理念を作り上げている。またホームの雰囲気が無機質にならない様に運営理念に職員全員で考えたイラストも添え、名札やパンフレット等にも記載している。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の各所に掲示したり、職員の名札の裏にも運営理念を入れいつでも確認ができる様に心がけている。また運営理念通り笑顔を中心掛け接することにより理念通りの笑顔がえしの実現を目指している。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームのパンフレットに記載し市内の病院等に設置している。また運営理念づくりの取り組みや想いなどは家族あての通信に記載し通知している。玄関や廊下などわかりやすく掲げており、地域の方や来訪者にも目につく様努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	夏休みのラジオ体操の場所の提供や、行事の際は保育園の子供たちや小学生からの差し入れ等もあり交流は行っている。今年度は夏祭りを開催し地域の方との交流にも新たな1歩が踏み出せたと思う。	日常的な付き合いとは考えにくい部分もあり、もう少し積極的に日常的な関りができたらと考えている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学校や中学校の行事の受け入れや、町内の文化祭に作品を出品したり、お神輿の休憩場所の提供など徐々に交流は増えつつある。	地域でのホームの認識は浸透しつつあるが、地域活動への参加はなかなかできない現状である。今後課題とし一層努力したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の中学生の福祉体験の実習の場としてホームを提供している。今年度よりグループホームの共用スペースを利用した、ミニデイサービス・空床利用の短期入所も実施しており、いろいろな要望に応じられるように努力している。</p>		<p>施設や職員1人1人がもっと福祉に携わる者として何か出来ないか考えていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>毎年自己評価を職員全員で行っており、外部評価についても職員に結果等を周知できるように、管理者、ホーム長から報告を行っている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>職員、家族、地域の方、行政職員の参加により運営推進会議を開催している。毎回直近の行事の報告やその他の取り組みなど話している。しばらく実施していなかった推進会議も、スライドによる報告会に変えてから家族等からわかりやすい、おもしろいと好評である。</p>		<p>地域の方の出席が難しいので、ご家族の参加人数を増やしたり、職員の参加や他のホームの管理者等にも声をかけ、出席者の顔ぶれにこだわらない報告会にし、ホームの情報発信の場として活用していきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>			<p>市町村との連携がなかなか困難であるが、今後検討したい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域福祉権利擁護事業のシンポジウムなどに参加して知識の向上に努めている。</p>		<p>職員全員が権利擁護や成年後見制度について理解するまでには至っておらず、パンフレットやスタッフ研修の議題に上げていきたいが、活用する機会もなく、言葉自体も難しくなかなか困難である。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>全職員が虐待などがない様に注意を払い努めている。</p>		<p>今後も変わらず施設内に注意を払っていきたい。また今年度ホーム長が高齢者虐待防止推進委員の研修を修了したので、スタッフ研修の課題として取り組みたいと考えている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者及び家族に重要事項説明書など用いて詳しく説明を行っている。また来所時に折にふれて疑問や説明を行っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に機会は設けては無いが、入居者や家族とコミュニケーションを取る様に心がけ、意見や発言に対しては随時対応したり、スタッフ会議で話し合っている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りは毎月家族に発送している。また個々のアルバムも作っている。廊下には写真や作品も掲示している。また新たな取り組みとして入居者1人1人に担当を決め、毎月月の様子を報告書として記載し家族へ発送している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に相談意見の投入ができる様に相談ボックスを設けている。また運営推進会議の場でもご家族の意見が言いやすいように接している。面会の際なども気軽に声をかけ、ご家族の意見を聞く様に努めている。		昨年家族アンケートを実施したが、活用に至っておらず、今年度は再度アンケートを実施し内容について職員で協議しホームの運営に生かせるようにしたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月 スタッフ会議を開催し意見交換を行っている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状況や行事などに応じて職員の人数、勤務の時間帯など対応している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による対応が1番だと考えているが、やむを得ない離職の場合は新規の職員は日勤、夜勤ともに現職員と一緒に対応するように心がけ、入居者、職員ともにダメージが少ない様に考慮する努力をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修の紹介を掲示したり、研修参加の呼びかけを行っている。研修に参加したスタッフはスタッフ会議で感想や報告など発表を行っている。また資料の配布も行っている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの研究会に加入している。研修会への参加の際や行事のさいの職員間の交流はある。		なるべく研修等に参加して交流や質の向上に努めたいと思っているが、1ユニットで参加人数も制限があるのが現状である。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務ローテーションを作成時に個々の希望に合った休みを取得できる様に調整を行っている。休憩時間をしっかりとることも検討しているが、施設の構造上休憩室等が取れないのが現状である。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康診断や予防接種などに助成金を支給している。また個々の資格取得の際に対応できる様に勤務を設定している。		向上心を持つための働きかけは難しいのが現状である。福祉に対する知識の向上に努めても、向上心につながるかは個々のモチベーション次第であり、足並みをそろえるのは難しい。また新規事業での施設の収益のアップにより賞与等も考慮しているが、まだまだ事業の途中段階である。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談を行ったり、担当のケアマネージャーから話を聞き、ご本人の状況の把握に努めている。細かいアセスメントの実施や体験入所など対応可能な説明も行っている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の際にこれまでの経緯や気持ちなどゆっくり聞く様に努めている。また家族の質問などにも1つ1つ答える様に心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者と面談を十分にを行い、入所だけではなく通所介護の利用の案内も行っている。また他のサービスが必要な場合は地域のケアマネージャーと連携を取り相談を行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームの見学を行ってもらってからサービスの利用を勧めている。また入居後は本人が安心できる様に本人の状態に応じた支援を行える様に、家族や知人にも協力を依頼している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員が共同で調理を行ったり、行事の際は職員も参加してともに笑いあえる様に心がけている。昔からの風習や味付けなど入居者に尋ねながら行う工夫もしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子をホーム便りや担当者からの月時報告書で伝えるほか、ご家族の面会の際には細かな説明を行い会話もする様に心がけ、ご家族とも馴染みの関係が築け、同じ気持ちで支援ができる様に努めている。また、行事にも参加願ひ、入居者、家族、職員の時間の共有にも努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームの行事に参加していただける様に招待状を送る様にしている。また、お盆、お正月、などご家族と外出や外泊ができる様に努めている。今年度は母の日にご家族からのお祝いメッセージをいただき、入居者にプレゼントするなど小さな取り組みだが、気持ちのある対応を心掛けている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの馴染みの関係が途切れない様に、ホームの面会時間は特に設定をしておらず、自由に出入りができる様にしている。また、かかりつけ医の受診や、趣味の集まりなどへの参加へは送迎を行っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者が皆で集える様に広めの空間がある。また日々のレクリエーションでも全員が参加できるような手工芸を行ったり、調理の手伝いや裁縫など入居者の得意分野に合わせた対応を心がけ、入居者1人1人がホームで役割が持てる様に支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設に移られてからも年賀状等は送っている。また、機会があれば施設や病院への訪問も行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々声かけや会話の中で入居者本人の意思の把握に努めている。個人の意向になるべく沿うように心がけており、本人の気に入る様な家具や物品の配置にも対応している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から聞き取りを行ったり、ご本人からの会話の中から把握に努めている。また今年度はセンター方式のシートの導入により、職員1人1人にも入居者の姿を見る感性を磨ける機会にもなっている。似顔絵などによる新たな発見も多くみられる。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入浴時間、入浴の際の温度、起床の時間、就寝の時間、散歩、神様へのお参り、食事の好みなどある程度本人の希望に合わせる様に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員が月に1回集まってスタッフ会議を行い、意見を出しケアに関しての意見交換を行っている。介護計画をご家族に説明する際に意見を伺ったり、計画作成担当者が作成した計画を一旦、担当者に見せ意見を徴収する様に努めている。		介護計画の見直しを実施中で、本人のアセスメントの重要性やICFの考えに基づくケアプランの作成に移行中である。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が現れた時はその都度アセスメントを行い、職員、管理者、ケアマネージャー、など話し合いをし介護計画に反映するように努めている。		アセスメントに時間がかかったり、ご家族からの意見徴収に時間がかかったりと、ケアにプランが後から付いてくる場合もみられ、今後迅速な対応を心がけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人用のファイルを用意し、食事状況、排便排尿、服薬、日常生活の様子などわかる様にしている。また申し送りノートを別に用意し、休み明けの職員も短時間で全入居者の様子の把握ができる様にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の通院の送迎や、会合への送迎、自宅への外泊の際も送迎を行ったりしている。またまだまだ実施の状況はないが、ショートステイやデイサービスなどいろいろなパターンのサービス提供ができる様に事業の整備も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者の趣味に合わせて地域の公民館へ出向いたり、避難訓練の際は消防署へ協力を依頼している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			運営推進会議の開催や通所介護の開始などにより、以前より地域の包括支援センターや居宅介護支援事業所との連携体制はできつつあるが、市町村独自のサービス利用には至っていない。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議や通所介護の開始により以前より協働する機会は増えつつある。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を聞き、原則としてかかりつけ医の変更は行わずに、馴染みの関係であるホームドクターに考慮している。薬の処方や体調にも気軽に相談できる様に心がけている。またかかりつけ医以外にも複数の協力医や嘱託医の契約を締結し、状態に応じて柔軟に対応できる様努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医との連携はないが、グループホームに協力的な医師との協力体制を築き、診療情報の提供や助言をもらっている。また入居者との関りを密にし、服薬の相談や状態に合わせた往診など実施している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤職員に准看護師の資格を持つ者を配置して、通常気軽に相談できる様にしている。また看護師と連携し1週間に1度は健康管理の訪問看護を実施しており、医療活用の支援としている。また2週間に1度は医師の往診(健康チェック)も行ってもらっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には本人の情報を医療機関に提供している。また入院中も職員がこまめにお見舞いに行くように心がけており、状態の把握や担当の看護師や医師と連絡をとり、早期の退院支援を行っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する方針の指針を作成し、事業所で可能なケアについて説明を行っている。また状態に応じて早期に家族・医師と相談し、事業所でできるターミナルケアの対応を行っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、家族の意見意向を聞き、医師や看護介護職員と相談し、支援を行うように心がけている。また重度化し支援が困難な場合に受け入れをお願いできる施設との連携もできつつある。		自分たちの事業所でどのようにターミナルのケアが行うことができるか、今後は自分たち独自のターミナルケアの指針方針を考え、想いの共有を行いケアに生かしたいと思います。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設に移り住む場合、ケアプランや情報の提供を行い、本人に変わらないケアが行える様に支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員1人1人がプライバシーの保護の徹底の意識が持てる様に、秘密保持誓約書を事業所とかわし、職務に就いている。また個々のプライバシーに配慮し、着替えなどは自室に誘導し行うようにしている。記録や個人情報の保護を念頭にファイルや掲示場所にも配慮を行っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>個々の状態に合わせて自己決定が困難な場合もみられるが、入居者本人がわかるような声かけを行い、簡単ではあるがレクリエーションやおやつを選んだり、複数の選択肢を提案する機会を設ける様に心がけている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日の流れは決まっているが、入浴の時間、起床就寝など出来るだけ本人の意向を取り入れている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>朝の更衣の際に好きな洋服を選んでもらったり、理容、美容は行きつけのお店に行かれたり、ホームへの訪問カットの美容師さんにも好みの長さなどを伝える様にしている。また外出の際などは洋服や小物を選ぶようにしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>お盆並べや下ごしらえ、食器の片付けなど1連の動作になるべく入居者、職員がかかわる様にしている。毎日の食事と同じものを同じテーブルで同じ時間に入居者、職員一緒に取っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>職員は入居者の好みやアレルギーの把握に努め、日々の食事でも代替メニューなど柔軟に対応している。また、飲酒に関しては本人の体調、場所、時間など考慮するものの、基本的には自由に楽しめる様にしている。行事(お花見、夏祭り、誕生日、お正月)の際は自然に楽しめる様に支援を行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄のリズムの把握に努め、トイレ誘導を行っている。基本的にトイレでの排泄を支援している。またオムツやパットを使用する際は、家族、スタッフで検討し、昼夜の使い分けや必要最小限の使用を心がけている。季節や体調に応じてオムツの使用を中止できるようなケアを心がけている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望する時間帯や夜間の入浴など完全に希望にそぐえない場合もみられるが、早め、午後に、お湯はぬるめ、熱めなど個々の希望に合わせている。また入浴を拒否される方に対しては、職員が交代して対応したり、時間をおいての声かけを行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は活動を心がけ、夜間の睡眠バランスがとりやすいように支援しているが、個々が自分のペースで休息を取っている。夜間に寝つけないときは、お茶を提供したり話し相手になるなど、気分を落ち着ける支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や調理の手伝い食器の片付けなど、個々にあった仕事を頼みお願いしている。また地域の囲碁会などにはホームから送迎を行い参加できる様に支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の承諾を得て自分で管理されている方もいらっしゃるが、ホーム側で管理していることが多くみられる。ホーム側で管理している方も、外出の際に個人で買い物を行ったり、ドライブの際の自販機での飲み物の購入など、お金にふれる機会を作り様に心がけている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や個人の買い物など個々の希望に出来るだけ添うように支援している。近所へ外出の際は外出証をさげて外出しており、地域の方の支援が得られるように配慮している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠方へドライブに出かけたり、ご家族と食事などに出かけられる方もいらっしゃる。特に外出に関して規制はなく、ご家族や知人との外出には柔軟に対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話などは自由にやり取りができる。また利用に関してはその方にあった仲介支援を行っている。また電話での会話などに配慮し、子機を使用して個々のスペースでの使用も可能にしている。通常電話、手紙などをあまり使用しない入居者の方に対しても、暑中見舞いなど季節の行事を利用して支援を行うよう心がけている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関に施錠は行っておらず、面会の時間も制限はないので、自由に訪問ができる様にしている。馴染みの友人の方の訪問もあり楽しまれている。面会の際は個々の居室への椅子の提供や、お茶を出し気兼ねなく過ごせる様に声をかけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関してはスタッフ会議で資料を配布したり、話し合ったりして日々の介護を行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出をしそうな入居者に対しては、強く制止を行わずスタッフが声をかけたり、同行するようにしている。また夜間の防犯以外は玄関にも施錠は行っていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフの業務のほとんどをリビングで行っており、いつも入居者の様子に気を配ることができる様心がけている。またスタッフ同士も声かけを心がけており連携を取る様にしている。夜間に関しても2時間毎の巡視を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物などは直接目に触れない場所に管理してある。嚴重に管理されているもの、簡易的な管理のものとは区別して行っている。入居者の様子に合わせて保管場所を考えたり、変えたりしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者個々の状態に合わせて事故防止の話し合いをスタッフ会議や折にふれて行っている。毎日の申し送りノートにヒヤリハットの記載もしており、マーカーによって色分けを行ったり、事故報告書の活用により、スタッフ全員が周知できる様にしている。事故報告書の記載を徹底することによりスタッフ1人1人が今後の対応を考えるような機会になっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全員のスタッフ(入社間もない職員を除き)が消防署の開催している救急救命講習を受講しており訓練を行っている。またマニュアルを作成しスタッフが必要に応じて手に取れる様に配置している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立ち会いのもと、入居者も一緒に年2回の避難訓練を行っている。また実際に火を燃やしての消火訓練や実際に吐き出し窓からの非難をスムーズに行える様にスロープも設置している。通所サービスの利用者を含めた人数の避難訓練も実施している。		夜間設定の避難訓練を実施したことがなく、災害時の緊急連絡網を实际使用したことがない。今後新人職員のための消火訓練や夜間想定 of 避難訓練を実施したいと思っている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者1人1人のリスクについてスタッフ会議にて話し合いを行っており、ホームでの考えや取り組みなどご家族にも随時相談を行っている。また事故については運営推進会議の際の報告議題にも考え、ご家族や外部の方の視点でのリスクマネジメントとして生かしたいと思っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルや個人の記録によって体調の変化に気づく様子が心にかけている。また運営者、管理者、介護者、看護職員など連携を取って対応を心にかけている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルに服薬のシートを作り、服薬状況やアレルギー、既往歴などわかりやすく整理している。またスタッフが常に見れるようにしている。申し送りノートにもマーカーにより色分けを行い、受診や処方状況が把握しやすいようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日本体操、レクリエーションを行い運動の促進に努めている。また朝食に牛乳やヨーグルトなど乳製品を提供するようしたり、野菜や果物を積極的に献立に盛り込むように留意している。		冬になり牛乳を好んで飲まれない入居者も増えつつあるせいか、朝食での乳製品の提供の徹底がなされていない。便秘や健康面のための提供であることと提供の意味を考え、積極的な取り入れを行いたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者個々の様子に合わせて、食後や起床時就寝時の歯磨き、義歯洗浄など声かけや付き添いを行っている。歯磨きが困難な方にはモンダミンなどの洗口剤を利用するなど、柔軟な対応を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を記録したり、水分のチェックも行っている。水分拒否がある方の対応も小分けにしたり、飲み物を変えたり、医師と相談してラコールなどの栄養補助食品の導入なども心がけている。また年に2回程度ではあるが、管理栄養士の方に献立チェックも行ってもらっている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後のうがい、手洗いの推奨を行っている。また入居者、スタッフ全員がインフルエンザの予防接種を行っている。感染症マニュアルを作成し職員がすぐに見れる位置に置いている。管理者、運営者は感染症対策の研修を受けており、感染症に対する知識の習得にも努めている。協力医や看護師にすぐに質疑ができる様な体制がある。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週に1度は冷蔵庫の清掃、チェックを行っている。また衛生管理マニュアルに沿って毎日包丁、まな板、ふきんなどはハイター消毒を行ったり、食器についても熱湯消毒を行うなど衛生面に留意している。食事やおやつの前、入居者全員の手指消毒も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関スペースや表札など一般の家庭と大差ないものを使用している。また観葉植物を飾ったり、掲示物も木製のパネルに入れるなど配慮し温かい雰囲気を中心掛け、施設色が強く出ない様にしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や台所などは家庭で使用する家具を配置している。またテレビの音や採光の具合は入居者の様子に合わせて調節している。季節に合わせてクリスマスツリーやひな人形、五月人形などを飾っており季節感が得られるように配慮している。西日の調節にもすだれを使うなど工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やテラスには2、3人で座れる長椅子を配置している。またリビングでは食卓、ソファ、和室と個々の好みのスペースもある。リビングの椅子も窓際に設置し日光浴や外を眺められるように考慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者本人の趣味のものや写真などが自由に飾られている。また家具も本人の持ち込みの物もみられる。家具や備品の持ち込みに規制は設けていない。		もっと個人の持ち物や家具の持ち込みを家族に依頼していきたい。なかなか家族の協力も得られにくい。本人の居場所の説明を行い、積極的に行ってほしい。今後は殺風景な施設から自分の部屋に変えてほしい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日の清掃時に空気を入れ替えを行っている。(リビングは常時換気扇、空気循環プロペラ使用)エアコンの使用は最小限にし、扇風機やうちわ、ハロゲンヒーターやホットカーペットを使用している。また加湿器の使用により乾燥に留意している。トイレは換気扇、消臭剤を使用して消臭に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の出入り口、内部はすべてバリアフリーになっている。またトイレ、廊下、浴室などには手すりが設置されている。また食卓の椅子は厚めの座布団を使用するなど個々にあった環境の提供に留意している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室には個人個人に工夫した飾りをつけたり、入居者が自然に過ごせる様にスタッフ会議で意見やアイデアを出し合い、実施するようにしている。入居者の様子に応じてさまざまなアイデアがないか常に考える様に心がけている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りに花壇を設置し季節の花を楽しめる様にしている。入居者の方の散歩コースにもなっており、通りすがりの方との交流の場にもなっている。建物の周りの段差もスロープ等の設置で押し車でスムーズに移動ができる様に留意している。また、テラスはスリッパのまま出る事が可能で、地域の子供たちとのラジオ体操の場にもなっている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者1人1人を個別に考え、個々にあったケアの提供を心がけている。入居者の方々が笑顔で明るく元気に過ごせる様に、スタッフも笑顔で明るく声をかける様にしている。事業所の運営理念に基づきケアを行うようにしている。また毎月の行事やレクリエーションもスタッフ全員でアイデアを出し合い、入居者、スタッフともに笑顔で実施できる様にしている。今年度はホームの駐車場にて夏祭りを開催し、少し地域との交流の第一歩が出せたのではないかと考えている。地域の子供達の「来年も楽しみです！」の言葉を力に継続できる様に頑張りたいと思います。毎日のラジオ体操やレクリエーションの実施にて自然に入居者の健康増進につながり、介護・看護の連携を心掛けこれからも元気で笑顔のホーム作りを心がけたいと思います。